

CSR 報告書 2024

MANAC Incorporated CSR Report 2024



人と化学の未来をめざして
マナック株式会社

地球環境・人間社会に対して 信頼と安全・安心・感動を 発信する会社へ。

“生命の源”と言われる海水資源から生まれたマナックにとって、地球環境を守ることは使命のひとつです。法令順守や利益貢献といった最低限の責任を果たすだけでなく、適切な企業統治と情報開示、地球環境・地域社会への配慮など、より高次の企業活動を通して、お取引先様や地域社会の人々をはじめとするステークホルダーの皆様に信頼される企業を目指し、責任ある企業活動を行っています。

本報告書では、当社の持続可能な社会の実現に貢献するため、2023年度に行いました様々な取り組みをご報告いたします。

今後とも、CSR活動に取り組むとともに、ステークホルダーの皆様とのコミュニケーションを図り、よりわかりやすい編集を目指してまいります。

■ 報告対象期間

2023年4月～2024年3月

■ 報告対象組織

マナック株式会社を対象としています。
※事業セグメントの売上高割合はグループ連結の数値です。

■ 参考としたガイドライン

環境省「環境報告ガイドライン」、
GRI「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン」

目次

編集方針	1
ごあいさつ	2
会社概要	3
グループ内の組織体制	
拠点	
事業セグメント	
企業理念	
経営理念	
企業行動憲章	
ガバナンス	5
コーポレート・ガバナンス	
リスクマネジメント	
コンプライアンス	
環境への取り組み	7
環境マネジメントシステム	
マテリアルフロー	
エネルギー使用	
温室効果ガス排出量	
省エネルギー	
化学物質の管理	
廃棄物排出量	
安全衛生への取り組み	11
安全衛生管理体制の確立	
健康の保持増進	
心の健康づくり	
保安・防災	
化学物質安全・物流安全	
社会との関わり	14
購買基本方針	
地域活動	
人的資本	16
働き方改革	
健康経営の取り組み	
持続可能な社会に向けた取り組み	18
木質系樹脂複合材料の開発	
サステナビリティ調査	

お問い合わせ先

マナック株式会社
環境品質保証部

TEL : (084) 954-3330

FAX : (084) 953-6148

E-mail : info@manac-inc.co.jp

企業価値の向上を目指し、 社会的価値と経済的価値の創造に 取り組んでいきます。

代表取締役 社長執行役員

千種 琢也

平素より、当社のCSR活動にご関心を賜り、心より感謝申し上げます。

このたび、当社グループは、2027年度（2028年3月期）を最終年度とするグループ中期計画を策定いたしました。

当社グループは2024年3月期決算において、プラスチック用難燃剤需要の大幅減少により営業損失及び経常損失を計上しておりますが、2024-2025年度を事業再構築期間、2026-2027年度を事業拡大期間とし、足元の業績の早期回復に努めるとともに、企業価値向上に向けた成長投資を行ってまいります。

グループ中計概要

- ① 化学を基盤とした技術・製品の創出により社会に価値を提供し、社会課題の解決に貢献する。スペシャリティケミカル（機能性化学品）を活用し人々の暮らしの向上に挑戦し続ける
- ② 本中期計画期間（特に「事業再構築期間」）で事業ポートフォリオ再構築を実施し、事業基盤強化を図る
- ③ 人的資本も含めた成長投資によりグループ全体の事業拡大を図る

一方、マナックでは、ファインケミカル事業「金属管理技術を習得し半導体関連分野の開拓」、「半導体関連分野・GMP中間体・ヨウ素化合物の高付加価値化」。マテリアルソリューション事業「市場変化に対応できる柔軟な難燃剤生産体制の構築」、「バイオマス由来複合材料WPC（ウッドプラスチックコンポジット）事業の拡大」。ヘルスサポート事業「人工透析市場での液剤から固形剤へのシフト推進」。海外事業「欧州やインドを対象とした海外事業展開」と、それぞれの事業の重要施策を進めていくことにより、本中期計画を推進してまいります。

そして、これら中期計画の活動を推し進める上において、企業価値を守り、より高める取り組みとして、内部統制の整備、安全、環境、品質保証活動への取り組みや社会貢献活動は必要不可欠な重要事項だと認識しております。

特に当社は化学品製造メーカーとして、改めて安全操業・環境への取り組みと共に製品・サービスの品質を最優先とし品質保証活動に取り組んでおります。また、それら活動や取り組みを支える人材への投資も進めております。

本報告書では2023年度のこれら取り組みを中心に報告いたします。

最後になりましたが、マナックは自社の経営資源を最大限に活用し、環境の変化に柔軟な発想を持ちながら持続可能な社会の実現に貢献してまいります。ステークホルダーの皆様におかれましても、くれぐれもご自愛のうえ、引き続きご支援の程よろしく願いいたします。



会社概要

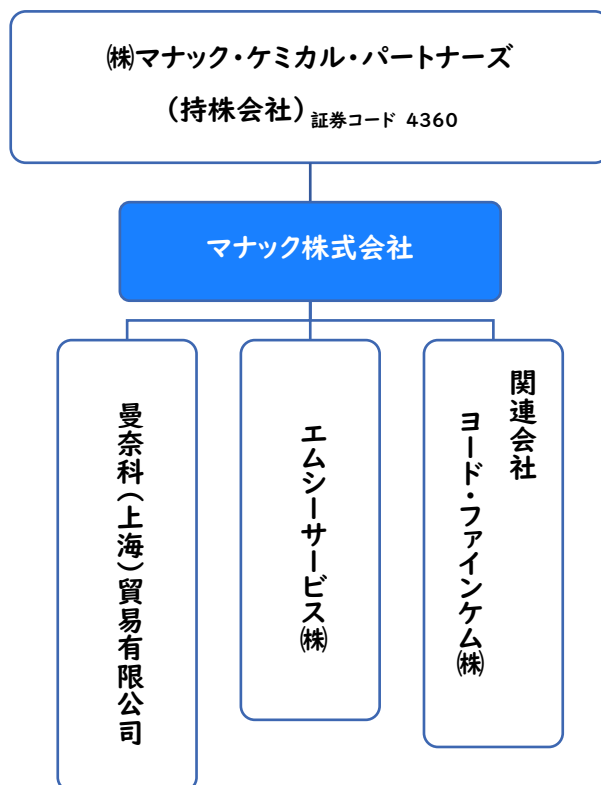
概要 2024年3月31日時点

- 商号 マナック株式会社
- 設立 1948年5月
- 従業員数 207名
- 資本金 3億円

拠点

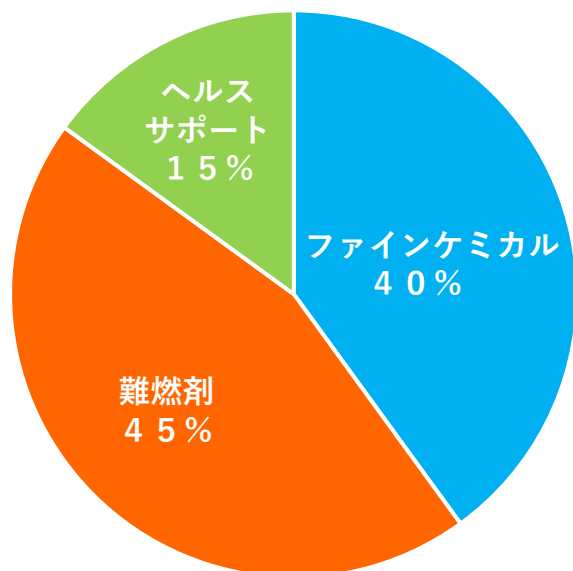
- 事業拠点
本社
東京都中央区日本橋3丁目8番4号
大阪営業所
大阪府大阪市西区京町堀1丁目6番2号
福山工場
広島県福山市箕沖町92番地
郷分事業所
広島県福山市郷分町950番地の1
- 研究拠点
技術開発センター・技術部
広島県福山市箕沖町92番地
郷分事業所・福山ラボ
広島県福山市郷分町950番地の1
浜松ラボ
静岡県浜松市西区西山町1370番地

グループ内の組織体制



事業セグメント

- 2023年度 連結売上高ベース



- ファインケミカル事業
難度の高い臭素化・ヨウ素化技術に取り組み、機能材料・電子材料・医薬品・治験薬等の分野の中間体を供給し、多岐かつ特殊向け用途が多く、付加価値の高い製品を提供しております。
- 難燃剤事業
モノを燃えにくくする特性のある難燃剤の生産・開発を行っています。家電製品、OA機器、IT関連機器、自動車などに使われております。
- ヘルスサポート事業
創業時より医薬・食品等の分野に安定して貢献し、人工透析剤及び輸液等の原料や抗菌剤原料などを取り扱っております。

企業理念

『スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献する』
～進化する技術、そして進化する人間をめざして

経営理念

- 1 「地球環境・人間社会に信頼と安全・安心・感動を発信する会社」をめざす
- 2 英知と勇気をもって能力を最高に発揮し、企業価値の最大化をめざす
- 3 明日の未来社会からも注目される会社をめざし、常に『革新』

企業行動憲章

公正で透明性のある企業を目指し、「企業行動憲章」を定めています。ステークホルダーの皆様からの確固たる信頼を確保し、企業の社会的責任を果たしていきたいと考えています。

企業行動憲章

私たちは、スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献するためにこの企業行動憲章を定めます。私たちは、あらゆるステークホルダーとコミュニケーションを図り、持続可能な社会の実現に向けた社会的存在価値のある製品を提供し続けたいと考えています。

（法令遵守）

私たちは、各国・地域の法令を遵守するとともに、高い倫理観をもってグローバルな事業活動を展開します。

（持続可能な経済成長と社会的課題の解決）

私たちは、持続可能な社会の実現に貢献するため、化学技術を用いたイノベーションを通じて社会に価値を提供します。

（公正な事業慣行）

私たちは、各国・地域の法令を遵守するとともに、公正かつ自由な競争ならびに適正な取引、責任ある調達を行います。

（公正な情報開示、ステークホルダーとの建設的対話）

私たちは、会社情報を適正に管理し、適時、適切に情報開示します。

また、企業をとりまく幅広いステークホルダーと建設的な対話を行うことで、企業価値の向上に努めます。

（人権の尊重）

私たちは、すべての人々の人権を尊重します。

（消費者・顧客との信頼関係）

私たちは、お客様の信頼と満足を得るために、適切な情報提供、誠実なコミュニケーションを行います。

（働き方改革）

私たちは、個々の能力を高め、多様性、人格、個性を尊重する働き方を実現すると共に、仕事と生活の調和の実現に努めます。

（職場環境の充実）

私たちは、健康と安全に十分配慮した働きやすい職場環境の構築に努めます。

（環境問題への取り組み）

私たちは、地球環境への影響や、その対策を考えて行動します。

（社会参画と発展への貢献）

私たちは、良き企業市民として、公の秩序に従い、信義誠実な行動を行うとともに積極的に社会に参画し、その発展に貢献します。

（危機管理の徹底）

私たちは、反社会的勢力の行動やテロ、サイバー攻撃、自然災害等に備え、組織的な危機管理を徹底します。

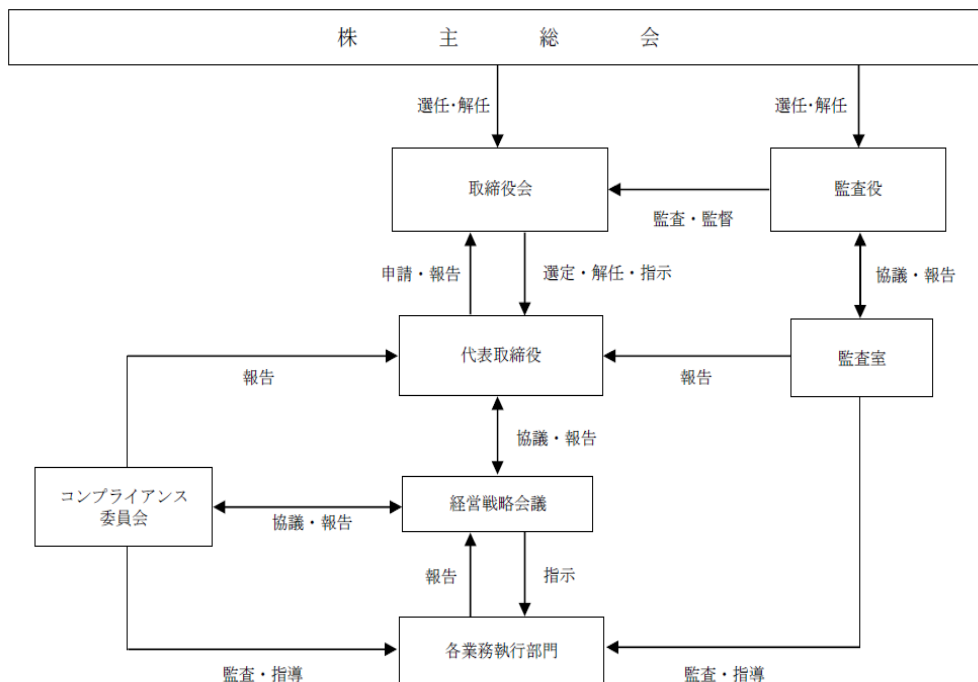
（経営トップの役割と本憲章の徹底）

経営トップをはじめとする役員は、本憲章の実現が自らの役割であることを認識し、率先垂範して行動するとともに、社員への周知徹底を図る。また、社内外の声を把握し、実効あるガバナンスを構築するとともに、企業倫理の徹底を図る。本憲章の精神に反し、社会からの信頼を失うような事態が発生したときには、経営トップが率先して問題解決にあたり、原因究明、再発防止に努め、その責任を果たし、信頼を回復する。

ステークホルダーの皆様に対する責任を自覚し、持続的な成長と中長期的な企業価値の創出に努めます。コンプライアンスに沿った事業活動を行い、コーポレート・ガバナンスを充実させていくことを最重要課題のひとつと位置付けています。

1. 機関構成・組織運営等について

組織形態：監査役設置会社



コーポレート・ガバナンス体制図

2. 会社の機関について

取締役会は取締役3名で構成されており、重要事項の決定及び業務執行の監督を行っています。また、取締役会に準ずる機関として経営戦略会議を設置しています。経営戦略会議は執行役員6名で構成されており、社内の重要事項についての確かつ迅速な意思決定を行い、急速に変化する経営環境に対応できる経営管理体制をとっています。

監査役は取締役会をはじめ社内の重要会議に出席し、取締役の業務執行及び企業活動の適法性、妥当性について監査しています。

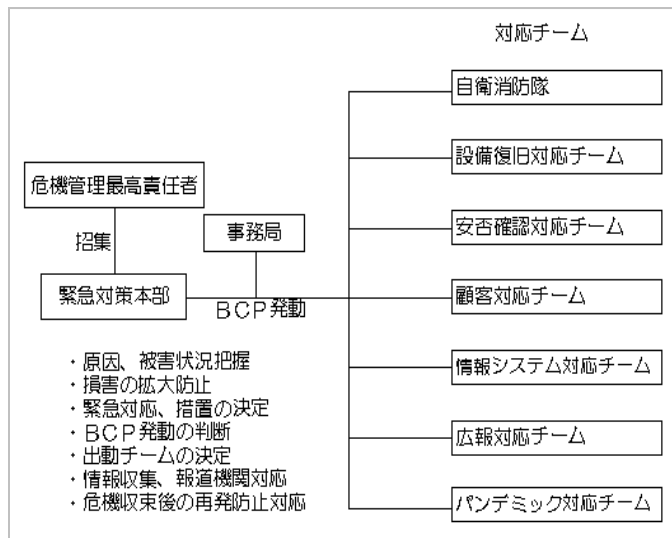
各業務執行部門が行っている事業活動については、監査室及びコンプライアンス委員会により、その適法性、妥当性を監査しています。

3. 現状のコーポレート・ガバナンス体制を選択している理由について

マナックの企業規模や事業内容などを総合的に勘案し、現体制がマナックにとって最も実効性のあるものと判断しています。

リスクマネジメント

リスクを最小限のものにするために、各種規程を定めて必要な社内体制を確立しています。大規模地震を想定した事業継続計画（BCP）に加え、感染症などパンデミックへの対応も行っており、状況に合わせた内容の見直しをしております。

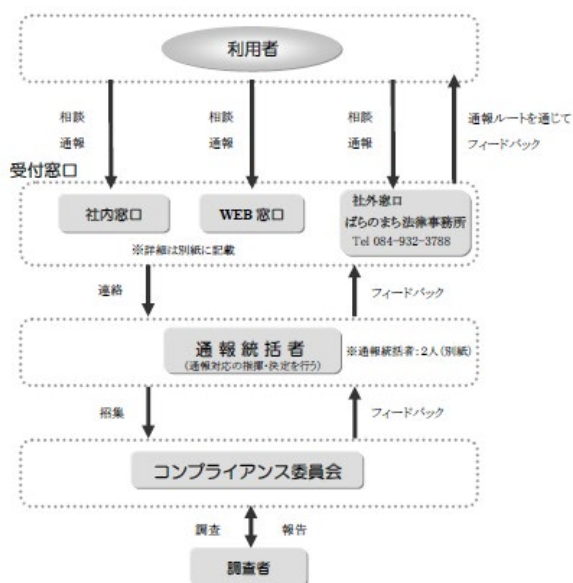


コンプライアンス

「企業行動憲章」に基づき、高いコンプライアンス意識をもって行動いたします。また、担当役員のもとコンプライアンス委員会を設置し、社内意識の向上に努めています。さらに、コンプライアンス違反に対して、効果的に対処するため内部通報制度を定めています。



コンプライアンス
推進月間ポスター



内部通報制度

ハンドブックの配布、毎月の教育活動や推進月間（10月）を通じて、役員及び従業員へのコンプライアンス意識の浸透を図っています。

利用者にとって、使いやすく、信頼される仕組みを目指して、内部通報制度を運用しています。直近では、より匿名性の高いWEB内部通報窓口を開設いたしました。

環境への取り組み

環境マネジメントシステム

ISO14001：2015年版規格に基づいた環境マネジメントシステムを確立しています。「環境基本理念」、「環境方針」に沿った環境への取り組み計画の策定と推進を継続し、改善に努めています。

環境基本理念

当社は温暖な気候に恵まれた瀬戸内の地に創業し、今日まで企業活動を展開してきました。この恵まれた環境を守ることも企業の使命の1つであると認識しています。

当社の事業は、常に化学物質と向き合っています。

化学物質は、その取扱いを一步誤ると、危険で有害なものであり、地球温暖化や環境汚染のもととして危惧されています。

しかし、適切な管理下に取り扱えばその用途は格段に広がります。

当社は、化学物質の有益性を生かすために、様々な場面において、環境への影響や、その対策を考えて行動し、社会の進化・発展に貢献するとともに、「地球環境・人間社会に信頼と安全・安心・感動を発信する会社」を目指します。

環境方針

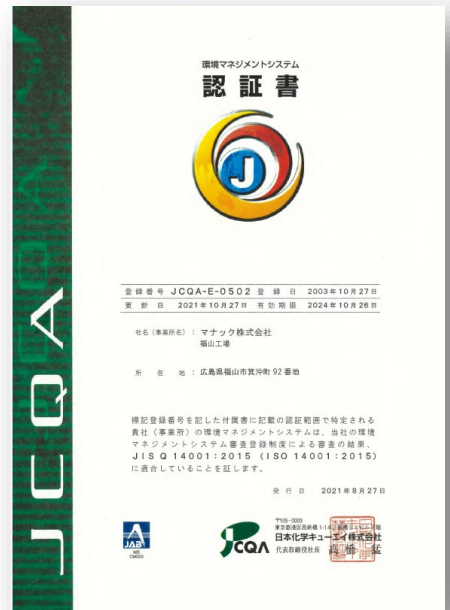
1. 地球温暖化や環境汚染の防止を念頭においた事業活動に努めます。
2. 活動の各段階において、大気への排出の抑制、廃棄物の削減、省エネルギーに取り組みます。
3. 全従業員に対して積極的な教育・訓練を実施し、環境に対する意識と知識の向上を図り、汚染の予防に努めます。
4. 環境保全に関する各種法令・協定等を理解し、順守します。
5. 環境マネジメントシステムを効果的に運用し、定期的にレビューを実施すると共に、継続的改善を図ります。



2022年7月1日

マナック株式会社

取締役社長執行役員 千種琢也



2023年度環境目標達成状況

環境方針に沿ったテーマで目標を立て活動しています。

活動テーマ	実施状況
PRTR対象物質の大気への排出抑制	8件実施
廃棄物の削減	3件実施
省エネ	4件実施
環境汚染の予防 (廃液管理、業務効率化、工程改善等)	9件実施
法令・協定等の順守	2件実施

一例として、データの解析、工程の適正化を通して塩化メチレンの大気放散量の削減に努めています。

環境への取り組み

マテリアルフロー

事業活動に伴い投入するエネルギーや資源、排出される物質を定量的に把握し、重要な環境課題の特定や課題解決に役立てています。今後とも環境影響の最小化を目指して推進していきます。

INPUT

エネルギー（原油換算） 4,000 kL

電気 2,400 kL
都市ガス 1,500 kL
その他 100 kL

用水 118,000 m³

原材料 14,000 t

※製品に添加される水も含まれます



OUTPUT

製品 14,000 t

CO₂排出量 8,100 t

Scope1（直接） 3,000 t
Scope2（間接） 5,100 t

総排水量 48,000 m³

PRTR対象物質

大気への排出量 115 t
事業所外への移動量 298 t

総廃棄物量 3,100 t

省エネルギー

当社はエネルギー管理「特定事業者」であり、生産のほとんどを受け持つ「福山工場」（「第1種指定工場」）を最重点に、全社において省エネルギーを推進しています。

福山工場の熱源であるボイラーは、ガス専焼の小型高性能機を台数制御運転しています。一方、電力削減は、工場の原動機を中心としながら事務/生活系での一般電力も含めた省エネに継続して取り組んでいます。

■ 継続中の取り組み

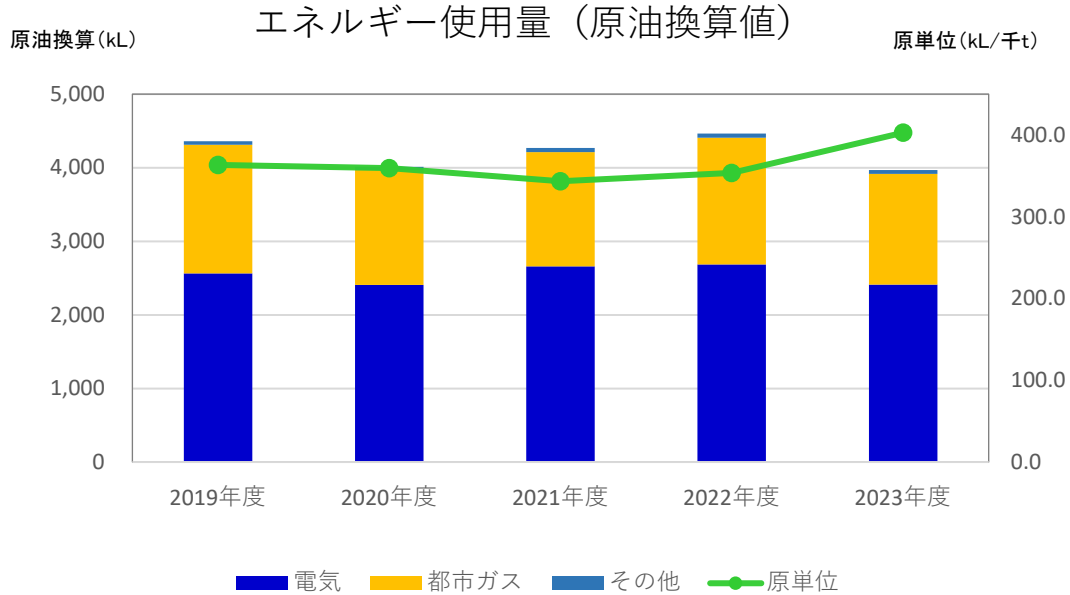
- 省エネ型冷凍機、空調機への更新
- LED電灯の導入（生産施設を含む）
- ポンプ等回転機器のインバーター化
- 出入口のビニールカーテン設置等（空調の負荷ピークを緩和）
- クール・ビズ、ウォーム・ビズ、こまめな消灯や空調停止などの節電活動
- 工程の時間調整によりピーク電力をシフト
- 設定圧力（空気圧、蒸気圧）の変更による負荷低減
- 冷凍機系等の定期整備・更新（熱交換部、冷却塔など）
- 配管、トラップ、保温材などの自主保全活動（洩れ、熱ロス防止）
- 電気自動車、充電設備の導入（1年あたり2,300kmの走行）



環境への取り組み

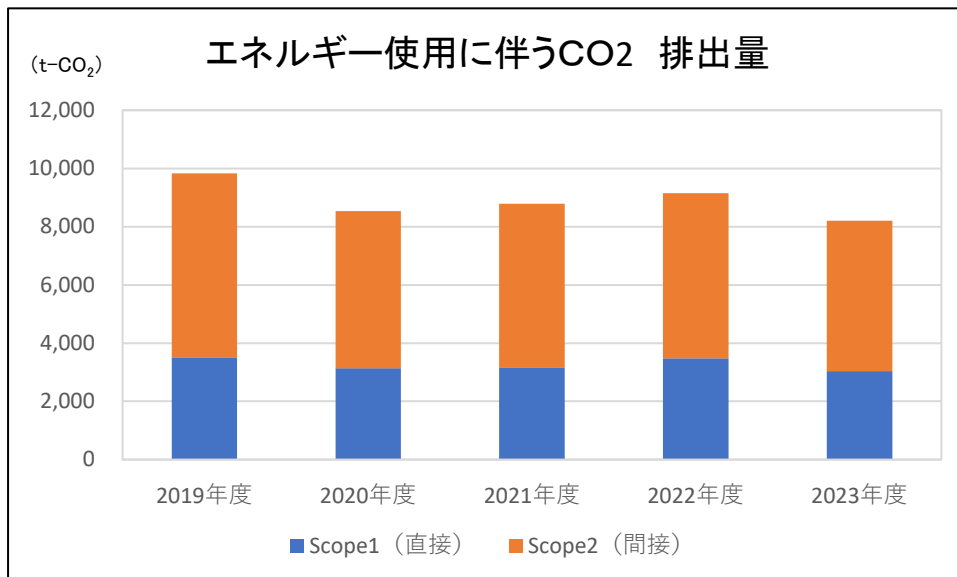
エネルギー使用量の推移

2023年度は、高付加価値製品へのシフトに伴いエネルギー高消費型製品の生産量が減少したものの、生産設備におけるユーティリティ設備を停止することができない為、単位生産量あたりのエネルギー使用量（エネルギー原単位）は増加しています。



温室効果ガス排出量

当社の排出する温暖化ガスのほとんどはエネルギー起因CO₂です。従って、省エネ活動がそのまま地球温暖化の防止活動となります。ボイラーの燃料転換・効率化並びに電力低減に注力する（前頁に記述）とともに、廃棄物発生抑制（委託先での温暖化ガスの減少に寄与）等にも取り組んでいます。



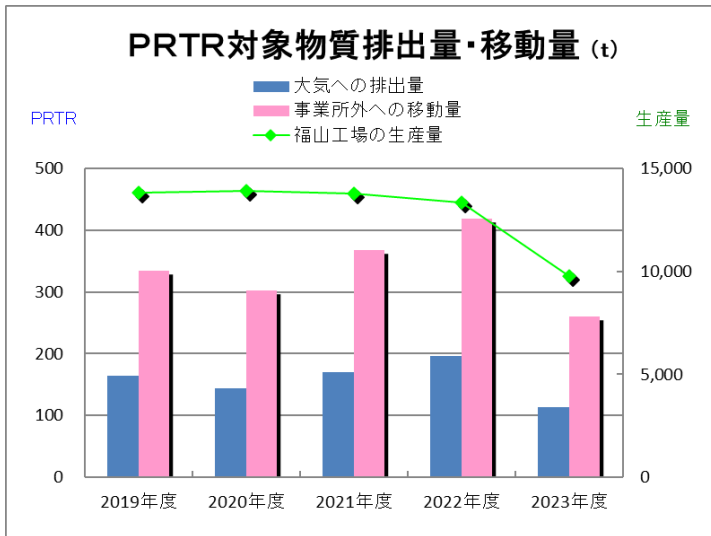
■ 二酸化炭素 (CO₂) 排出量の推移

エネルギー使用量に連動し、CO₂排出量も減少しました。

環境への取り組み

化学物質の管理

「特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律」（PRTR法）に基づき、対象事業所となる福山工場においては化学物質の環境への排出量・移動量を把握しています。ISO14001システムと連動し、対象化学物質の排出抑制を環境目標活動として継続的に取り組んでおり、効果が徐々に表れています。



環境目標活動

- 設備： 密閉化の推進
冷却能力の向上
- 工程： 作業方法の改善
除害装置の適正使用
低環境負荷溶媒利用の促進
- 取扱者： 適切な取扱方法の教育

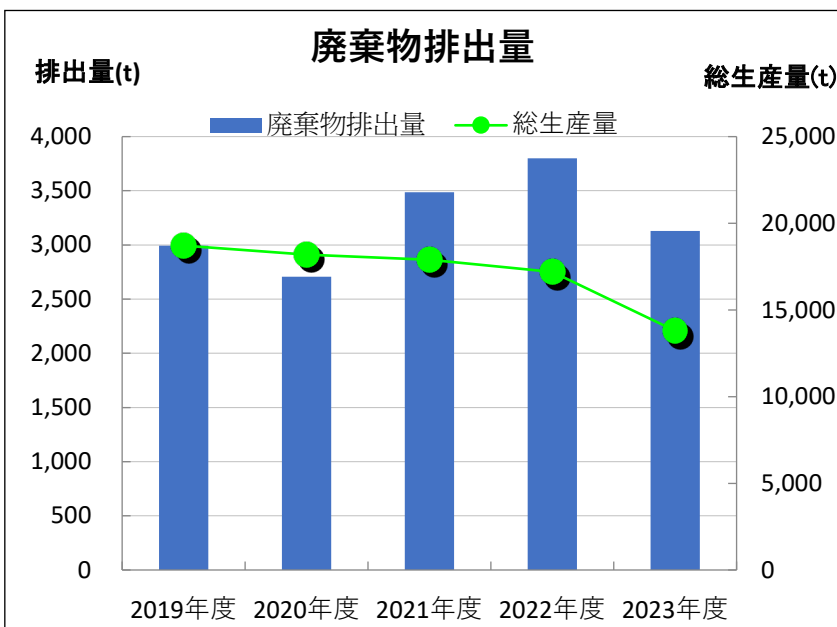
※PRTRとは

「Pollutant Release and Transfer Register」

人の健康や生態系に有害なおそれのある化学物質について、事業所からの環境（大気、水、土壌）への排出量及び廃棄物に含まれての事業所外への移動量を、事業者が自ら把握し国に対して届け出るとともに、国は届出データや推計に基づき、排出量・移動量を集計し、公表する制度です。

廃棄物排出量

当社では、廃棄物の分別回収、溶媒のリサイクル等廃棄物の適正な処理と再資源化に努めています。また、廃棄物の処理に関しては優良認定処理業者を選択し、3Rの推進を実施して、燃料やセメント原料への転化を行い、循環型社会の構築に貢献しています。



廃棄物排出量の推移

2023年度の総生産量は減少となり、生産量と比例して廃棄物排出量も減少となりましたが、引き続き工程等の見直し等を推進し、廃棄物の発生抑制に取り組んでいます。

廃棄物排出量の削減活動

環境目標の一環として、洗浄用アセトンの蒸留回収、水系廃液の社内処理の推進を行い、廃棄物の削減に努めています。

安全衛生管理体制の確立

マナックの安全衛生方針は、「みんなで進める安全衛生活動を通じて、事故・災害の未然防止を図り、安全文化を構築する」を掲げて取り組んでいます。基本的なルールは守り、「なぜ」を考え行動する。先取りの安全衛生活動により、事故・災害ゼロを目指し、安全第一の文化を醸成しています。2023年度は無事故継続日数2000日を達成いたしました。

※「考動」とは、各自がよく考え、行動に移す事を言います。

■安全衛生活動

労働災害ゼロ、職業性疾病ゼロ、保護具完全着用を目指し、安全衛生委員会を主体に活動を行っております。また、4つの重点施策を設定し、委員会内に設けたワーキンググループにより主体的な活動を展開しています。

■重点施策

1. 職場リスク低減活動
 - ・ヒヤリ・ハット、キガカリ活動
 - ・危険予知活動、指差考動
 - ・職場パトロール（定期、不定期）の実施
 - ・安全衛生職場会議（毎月1回以上）
 - ・各部署に潜在する安全衛生テーマに対する取り組み
 - ・過去の事故・トラブル対策事例の再検証
 - ・エイジフレンドリー職場の推進
2. こころとからだの健康管理
 - ・目配り、気配り、声かけの実施（朝礼、始業、終業時のミーティング等）
 - ・スマイル運動「明るい笑顔のあいさつから」を実施
 - ・定期健康診断後の積極的対応による有所見率改善の取り組み
3. 5S活動（整理・整頓・清掃・清潔・しつけ）の実践
 - ・パトロール実施（見える化）による職場改善
 - ・原料、製品、機器、資材の適正在庫、適正保管
 - ・一仕事、一片付けの実践
 - ・週末清掃の有効利用と各部署特性に応じた5S習慣付け
4. 化学物質リスクアセスメント
 - ・危険有害性リスク低減措置へ部署長主導で取り組み、成果発表
 - ・取り扱い物質の情報調査、単位操作別の危険源の把握

■その他

1. ワーキンググループによるテーマ別活動
 - ・集合教育の企画（危険物の安全な取扱い、静電気対策による防災等）
 - ・安全の日（毎月1日）の行事の推進
 - ・ヒヤリハット、キガカリ活動の推進及び結果報告
 - ・化学物質リスクアセスメントの推進
2. 安全衛生パトロール（役員、産業医、安全管理者、衛生管理者）
3. 全国安全週間、全国労働衛生週間の行事企画推進
4. 外部関連団体との連携安全管理体制の確立



安全衛生パトロール

安全衛生への取り組み

健康の保持増進

当社では、従業員一人ひとりが健康に過ごせるよう、年2回の定期健康診断を行い、検診の結果、再検査が必要な場合や、所見がある場合には、産業医による個別のフォローを実施するなど、生活習慣病などの予防に努めています。その他、広島県の健康関連事業と連携し取り組んでいます。

- 産業医による健康管理、衛生の指導
- 産業医による心と身体の健康相談（毎月）
- 産業医による職場巡視（毎月）
- 検診機関 保健師による日常生活改善指導、健康への支援
- 衛生講習会「衛生管理者による衛生訓話」開催
- 季節要因による流行疾患の情報（毎月）

心の健康づくり

メンタルヘルス対策として、全従業員を対象とした「心の健康診断」講習会を実施し、心と身体の健康管理に取り組んでいます。

■心の健康づくり計画

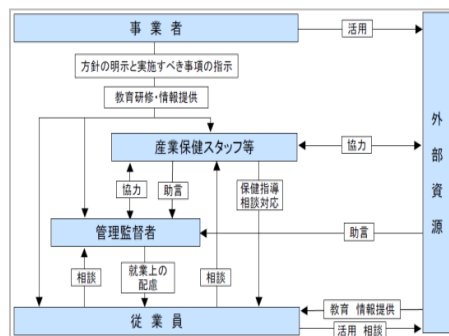
従業員とその家族の幸福な生活のために、また事業場の生産性及び活気のある職場づくりのために重要な課題であり、メンタルヘルス不調への対応だけでなく職場のコミュニケーションの活性化などを含めて広い意味での心の健康づくりを推進しています。

2015年12月の労働安全衛生法改正により、ストレスチェック制度が創設されました。

※ストレスチェックの目的

- ・一次予防。（従業員のメンタルヘルス不調の未然防止）
- ・自分自身のストレスへの気づきを促す。
- ・ストレスの原因となる職場環境の改善につなげる。
- ・メンタルヘルス不調への対応し予防する。

当社では、2010年に心の健康診断の実施を開始し、2012年度から心の健康づくり計画により運用しています。



心の健康づくり体制図

■心と身体の健康づくり、明るい職場環境の推進

社外専門家のケアによる、家族を含めた心の健康診断相談の窓口を設置しています。

■メンタルヘルス講習会

(株)三十八花堂 上級睡眠健康指導士 産業カウンセラーの保田厚子様により、メンタルヘルスの講習会「今日からセルフケア」と題して行われました。

メンタル不調になってしまうと、周囲の人からは声かけをするくらいしかできず、早めに専門医に相談することが重要であり、メンタル不調が進行してしまう前に、どのようにケアするかを講習いただきました。食事や睡眠の質を改め、予防に努めることが、大切であることを学びました。



安全衛生への取り組み

保安・防災

危険物施設や薬品保管施設などでの事故発生（火災・爆発、漏洩）を想定した対応訓練を繰り返し行い、継続的なレベルアップに努めています。また、自然災害（地震、津波）への対応として緊急用資材・備蓄品等も定期的に点検し、BCPの一環としております。

【近年の防災訓練実施状況（福山工場）】



年月	事故想定
2019年 05月	設備破損・薬液およびガス漏洩
11月	高圧ガスの配管破損によるガス漏洩
2020年 03月	地震想定 机上訓練（安全確認、安否確認）
06月	基本動作、操作の確認、隊列訓練
11月	臭素漏洩・ガスの危害（拡散）防止
2021年 06月	基本動作、操作の確認、隊列訓練
11月	ドラム缶破裂火災・延焼の危害（拡散）防止
2022年 03月	地震想定 机上訓練（安全確認、安否確認）
05月	設備破損・薬液およびガス漏洩
2023年 03月	地震想定 机上訓練（安全確認、安否確認）
05月	ドラム缶から発生した酸性ガス漏洩の危害（拡散）防止
11月	臭素漏洩・ガスの危害（拡散）防止
2024年 03月	地震想定 机上訓練（安全確認、安否確認）

化学物質安全・物流安全

便利で快適な私たちの生活は、さまざまな化学物質に支えられていますが、これらの化学物質は多くの法令などにより規制されています。改正された法令には随時対応し、安全な取扱いを心掛け、SDS、ラベル、イエローカード等により、お客様や物流関係の方にも情報を提供しています。

■ GHS対応

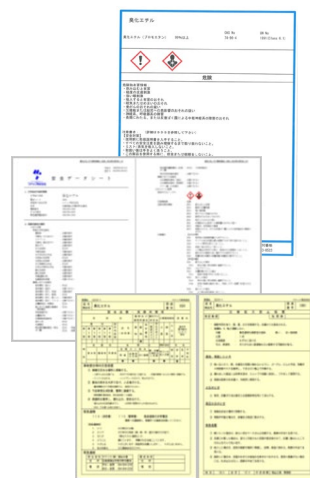
化学品の分類及び表示に関する世界調和システム（GHS）に基づいて、化学品の危険有害性を一定の基準に従って分類し、絵表示などを用いて分かりやすく表示したラベルへの対応を進めています。

■ SDS（安全データシート）による情報提供

化学品の安全な取り扱いを確保するために、化学品の危険有害性等に関する情報を記載した文書SDS（安全データシート）をお客様に提供するとともに、社内の担当者にも通知し、取扱い時の注意喚起を促しています。法令の改正に伴い、随時改訂を行っています。

■ イエローカード

万が一の輸送中の事故に備え、物流安全管理指針に沿って、運転手や消防・警察などの関係者が取るべき処置を記載した緊急連絡カード「イエローカード」を作成し、輸送中の注意喚起を促しています。



購買基本方針

マナックは、環境・社会に配慮した持続可能な調達を推進するため、「購買基本方針」を制定いたしました。この方針には、お取引先様との相互理解、信頼関係に基づき、サプライチェーン全体でCSR調達活動に取り組む姿勢を取りまとめています。

また、2020年1月より流行したコロナの影響で約3年停滞していた実地監査を2022年下期より国内から再開し、2023年下期からは海外へと対応しています。

購買基本方針

当社は、企業理念「スペシャリティーケミカルをベースに社会の進化・発展に貢献する」を実現するため、すべてのお取引先様は相互理解と信頼関係に基づく良きパートナーであると考え、以下の購買方針を策定し、購買活動を行います。

1. 調達の選考基準

- お取引先様の選定においては、過去の実績に拘らず、公平・公正を徹底し、グローバルに開かれた購買活動を行います。
- BCP（事業継続計画）の基本方針に則り、安定調達、及び価格・品質、供給能力などの経済合理性の判断基準に基づいて決定します。

2. 法令遵守

- 購買活動に関わる各国の法令・規制、及び社会規範を遵守します。
- 企業倫理に基づき社会的良識をもって行動し、サプライチェーン全体への浸透に努めます。

3. 信頼関係の構築

- 相互利益の精神に基づき、お取引先様とのより良い信頼関係の構築に努め、お取引先様からのCSR調達関連の調査協力やガイドラインに賛同します。
- お取引先様との取引において得た重要事項・情報については機密保持を徹底し、適切に管理します。

4. CSR活動

- 社会、環境、人権に配慮した責任ある調達活動を行います。
- 持続可能な社会の実現のために、サプライチェーン全体のCSR活動推進に取り組みます。
- 紛争鉱物は、原料として使用しません。

地域活動

マナックでは、地域社会の一員として、より良い社会をつくるための取り組みとして、様々な地域活動へ積極的に参加しています。

■地域の学校との関わり

福山工場近隣の小学校に小学生新聞、高等学校に英字新聞の提供を続けています。



■消防競技大会

2023年10月開催の第55回福山地区消防競技大会に参加し、上位入賞を果たしました。毎年複数の社員が出場のための訓練を行っており、工場全体の安全意識向上に寄与しています。



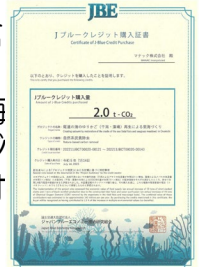
■地域活動への協賛

福山シティFCのエグゼクティブパートナーとしてJFL昇格を直近目標とするチームの応援とクラブの活動を継続的にバックアップしています。



■ブルーカーボン オフセット事業に賛同

マナック創業地、松永湾も含まれる「尾道の海のゆりかご（干潟・藻場）再生による里海づくり」に賛同。ブルークレジットを購入する形でカーボンオフセットに参画しています。



■清掃活動

従業員による事業所周辺の美化活動を継続して行っております。活動を通じて地域との関わりの深耕と環境美化活動に努めます。



福山ばら祭り、芦田川花火大会など地域を代表する催しへの継続協賛のほか、芦田川親水公園のネーミングライツ取得など地域活動の協賛に積極的に関わっています。



働き方改革

マナックは、DX化による業務改善の取り組みによって、従業員の働きがいや働きやすさの向上とライフ・ワーク・バランスの推進を両立させ、社員も会社も成長する企業体質を目指し働き方改革を推進しています。

■これまでの取り組み

取り組み	目的	内容
フレックスタイム制度	長時間労働の抑制 柔軟な働き方の推進	業務内容に応じてコアタイムを廃止し、長時間労働の抑制が可能
労働時間管理のデジタル化	適性な労働時間管理	勤怠管理をシステム化することで適正な労働時間を管理
Web会議システムの導入	ITを活用した業務効率化	Web会議システムの導入により、オンライン会議を行うことで、移動時間の抑制と業務の効率化
在宅勤務制度	柔軟な働き方の推進 育児・介護の両立	リモートワークにより、時間の有効利用が可能に 育児・介護の両立が可能となった
時間単位年休の導入	柔軟な働き方の推進 育児・介護の両立	ライフ・ワーク・バランスの更なる推進

■ライフ・ワーク・バランスの推進

フレックスタイム勤務制度、時間単位年休制度の運用を進めるとともに、感染症の状況を鑑み、積立年休（消滅した年休）の優先取得を可能とするなど柔軟な制度の整備を続けています。働きやすい環境の提供は年次有給休暇取得率にも表れており、全国平均62%を上回る結果となっています。また、男性従業員の育児休業の取得を推奨し、2023年度は6名（育児休業取得率100%）の方が取得されました。

	2021年度	2022年度	2023年度
年休取得率	66%	71%	71%
月平均残業時間	7時間	7時間	7時間
男性育休取得者数	1人	4人	6人

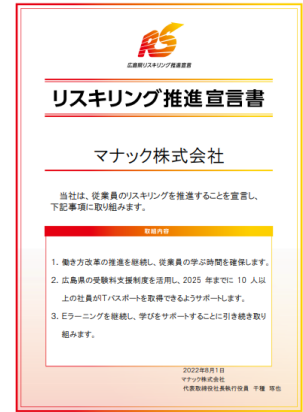
■福利厚生制度の拡充

多様化する従業員の福利厚生に対応するべくカフェテリアプランを導入しています。ライフステージに応じた利用を目的とし、従業員にポイントを付与し、育児・介護支援、レクリエーション利用等、自由に利用できるよう運用しております。

■教育制度の充実

2021年度よりWEB研修制度を導入し、社員個々のステージに応じた受講や興味のある分野への積極的な知識の取得、弱点の補強などに活用しています。

また、今後のDX戦略において、ITスキルの向上を目的としたITパスポート取得を支援しております。これに限らず、新たに必要となる業務、職務に順応できるよう、これからも従業員の全体の能力向上を目指して推進していきます。



■人事評価制度の充実

人事管理システムによる、評価結果のフィードバックや評価の透明化を図ることで従業員のエンゲージメント向上を目指しています。

健康経営の取り組み

マナックは、従業員が心身ともに健康で働きつづけることが出来る会社を目指し、健康経営を進めて参ります。

■健康経営宣言

健康経営優良法人2024（中小規模法人部門）に認定

取り組み内容：

- ・産業医による健康管理、衛生の指導
- ・毎月行う産業医による心と身体健康相談
- ・保健師による日常生活改善指導、健康支援
- ・衛生管理者による衛生講習会の開催
- ・インフルエンザワクチン接種の全額補助
- ・人間ドック対象者への全額補助
- ・女性医師による女性従業員の為の健康相談
- ・ラジオ体操（任意）の継続実施
- ・スポーツ系同好会（サッカー、テニス、ウォーキング）への支援
- ・自動販売機における健康配慮飲料の提供、健康アプリと連携させた健康意識の向上



■健康支援制度の充実

年2回の健康診断はもちろん心の健康診断も実施。2021年度より女性活躍の観点から女性を対象とした女性医師による健康診断制度も引き続き運用しております。その結果、女性のストレスレベルが軽減する結果となりました。

持続可能な社会に向けた取り組み

木質系樹脂複合材料の開発

これまでの難燃剤（添加剤分野）から、SDGsの観点を意識して材料分野に踏み込んだ研究開発に注力しております。その取り組みとして、バイオマス材料を利用した素材の研究開発に着手し、難燃機能を含む新しい機能を持たせた木質系樹脂複合材料（WPC）の開発を浜松ラボで進めております。また、アライアンス先との共同研究活動を進めており、事業スピードを加速させ、サステナブルな社会の実現に貢献します。

※WPC（Wood-Plastic Composite）とは

木粉と熱可塑性プラスチックを溶融混合した木質系樹脂複合材料です。現在、WPCの多くは、デッキ材などのエクステリア建材として利用されていますが、その他の利用事例は限られています。当社では、流動性や難燃性など機能性を高めた射出成形が可能なWPC材料を研究開発し、利用用途の拡大を目指しています。



WPCペレット

「WPC」の研究開発・製造活動が貢献できるSDGs

- ① 持続可能な天然資源である木粉を高濃度に配合することで、従来使用されてきた化石燃料由来のプラスチックの使用量を大幅に削減できる材料として、研究開発・製造販売を進めております。
- ② 従来の木質系樹脂複合材料の押出成形での利用がメインですが、当社開発品は射出成形が可能という性質を持っているため、より幅広い用途展開が期待できます。



WPCの射出成形事例：
(上) ティッシュケース
(下) スプーン

WPCの開発を担当する大峠さん（浜松ラボ）に、WPC開発の開発課題についてお話を伺いました！

当社ではWPCのペレットを製造しており、この材料をお客様が部品の成形に使用しています。WPCには木粉（天然資源）が多く含まれているため、従来の汎用樹脂とは成形時の挙動が大きく異なります。このため、実際に成形を担当する方に材料の特性を説明し、適切な成形条件を理解していただけるよう取り組んでいます。また、研究開発としては、WPCの特性および成形加工性を最大限に引き出す技術やWPCの難燃化技術を確立するために、学術機関等との連携にも取り組んでいます。これにより、従来は限られた用途しかなかったWPCが、自動車部材や家電部材、日用品など幅広い分野で活用される可能性が広がると考えています。最終的には、WPCがより身近な存在となり、環境に貢献できる素材として広く認知されることを目指しています。

サステナビリティ調査

当社は、国際的なサステナビリティ調査機関EcoVadis社※による2023年のサステナビリティ評価において、「ブロンズ」評価（上位50%）を取得しました。

今回の結果を受け、現在不足している取り組みについては改善を行うとともに、今後も社会課題解決に向けた取り組みを継続的に推進し、持続可能な社会の実現に寄与することにより持続可能な企業となるよう努力してまいります。



臭素化・ヨウ素化技術の仕組みがわかるメディア

Chemia

Chemia マナック



<https://chemia.manac-inc.co.jp/>

臭素・ヨウ素化合物製造のパイオニア

皆様にお届けする“Chemia”（ケミア）

毎月記事更新中！お楽しみに！

#超原子価ヨウ素化合物「DAIB」

#ポリイミドモノマー「ODPA/TAHQ」



2024年9月発行